

ジャウィ綴りマレー語の書き方と読み方 —— 20世紀のマレーシア地域を中心に ——

山本博之*

An Explanatory Note on the Transliteration of *Jawi* in 20th Century Malaysia

YAMAMOTO Hiroyuki*

The main purpose of this article is to provide a brief explanation on the various aspects of the spelling of *Jawi* that has been specifically used in Malaysia throughout the 20th century. The topics covered in this article are: the basic rules of spelling and the letters of *Jawi*; *alif*; affixes; *ya* and *wau*; the usage of *hamzah*; the traditional spelling; and *ain*. No previous knowledge of Arabic is assumed. The format of each section is based on existing works on *Jawi* spelling such as *Belajar Tulisan Jawi*, but is supplemented with additional explanations and exercises to facilitate learning.

* 東京大学大学院総合文化研究科助手：Research Associate, Graduate School of Arts and Sciences, The University of Tokyo

はじめに	V <i>hamzah</i> (ء) の用法
I 文字と表記の基礎	1. 語尾の-k
1. アラビア文字とジャウイ文字	2. 連続する母音
2. ジャウイ表記とローマ字表記	3. 接尾辞の-an
II <i>alif</i> (ا)	4. 接頭辞+ <i>alif</i>
1. 子音に挟まれた <i>alif</i>	VI 慣用的な表記
2. 「弱いe」と接辞	VII <i>ain</i> (ع / ع) の用法
3. 語頭の <i>alif</i>	文献案内
III 接辞	練習問題の解答と解説
1. 接頭辞	付録：特徴によるジャウイ文字一覧
2. 接尾辞	
IV <i>ya</i> (ي) と <i>wau</i> (و)	
1. 母音に続く <i>ya</i> と <i>wau</i>	
2. 語頭の <i>ya</i> と <i>wau</i>	

はじめに

本稿は、ジャウイ表記のマレー語をローマ字表記に変換するための法則を整理したものであり、また、それに練習問題と解答・解説を添えることによってジャウイ文書の読み方の独習用教材としても使えることを目指したものである。

ジャウイは、かつてマレー語を書き記すのに用いられていた主要な文字であった。また、近年ではマレー・イスラム圏の各地でその価値を見直す動きが登場している。このようにジャウイ文書はマレー・イスラム圏に関する文献資料として重要なものの1つであると言えるが、それにもかかわらず、これまでジャウイ文書は研究に積極的に利用されてこなかった。それは、特に近現代史では利用可能なローマ字表記マレー語の資料が多いことに加え、多様な住民を包摂する社会のあり方を検討する方向に研究が向かい、そのため特定の宗教との結びつきが強いジャウイ文書は資料として利用価値が低いと判断されたためではないかと推測される。しかしその一方で、ジャウイの表記法についての解説書が手に入りにくいという要因があったことも否定できないであろう。ジャウイ表記について英語やマレー語で書かれた解説書はいくつかあるが、それらは体系的であるよりも網羅的であることに重きを置いたジャウイ表記とローマ字表記の対照表であったり、読者にアラビア語の知識があることを前提にジャウイ表記マレー語の正書法を教えることを目的としたものであったりするため、いずれもジャウイの読み方を一から体系的に習得したい学習者には不向きである。本稿は、それらの解説書を参考にしてジャウイの表記法を整理し、アラビア語の知識を持たない読者にも理解できるような記述を試みたものである。

ジャウイは、マレー・イスラム圏において国籍や民族性による妨げを受けずに広く使用されたこと、また、ローマ字表記と併用されたためもあって政治権力が表記の標準化を強く進めなかったことから、時代や地域や書き手によって表記法がさまざまに異なるという特徴がある。そう考えるならば、多様なジャウイの表記法をすべて記述するのは不可能であるだけでなく、ジャウイの表記法をただ1通りに定まるものとして扱おうとすることこそが

ジャウイを扱う上で最も適切でない態度であると言えるかもしれない。しかし、それにもかかわらず、特定の時代に特定の地域で比較的広く用いられていたジャウイ表記の法則を整理し記述することは、それと異なる時代や地域におけるジャウイ表記と比較検討する際の参考資料を提供するという点でも意味があるはずである。そのため、本稿では、専門家たちによってジャウイ表記の標準化の試みが積極的に提唱され、それが出版物を通じて広く知られていた20世紀のマレーシア地域³⁾を中心に、定期刊行物などで多く用いられていた表記法を取り上げる。ジャウイ表記の法則を記述することに対する前述のような問題を含め、本稿には今後さらに検討・改善すべき点多々あると思われるが、ジャウイ表記の体系的な研究に向けた試みの1つとして本稿を世に問うことには意味があるものと考えて⁴⁾。

I 文字と表記の基礎

1. アラビア文字とジャウイ文字

ジャウイとは、アラビア文字、およびマレー語を表記するためにその一部を改変したもの（以下ではこれらの文字を総称して「ジャウイ文字」と呼ぶ）を用いたマレー語の表記法である⁵⁾。したがって、アラビア文字が認識できないとジャウイ文書を読むことができない。個々のジャウイ文字とローマ字の対応について詳しく取り上げることは本稿の本来の目的ではないが、アラビア語の未習者でもジャウイ文書は読めるとの立場から、この項では個々のジャウイ文字をローマ字に置き換えるために必要な知識を一通り説明する。アラビア文字に関するより厳密な解説については、本号の東長論文や市販のアラビア語の入門書等を参照されたい。

アラビア文字には、

- ① 右から左に向けて書かれる
- ② 前後の繋がり方によって形が変わる

という2つの特徴があり、さらにジャウイ文字には、

- ③ アラビア語では使わない文字をいくつか用いる

という特徴がある。ここで重要なのは②で、アラビア文字はほとんどの文字が「核」の部分と「飾り」の部分から成っており、文字が前後に繋がるときには文字の核の部分だけ書かれ、飾りの部分は（単独で書くときなど）後ろに文字が繋がらないときにのみ添えられる。アラビア語の教本などに載っているアラビア文字一覧は、多くの場合、単独で書くときの形を並べたものである。そのため、一覧にある文字の形を覚えてだけでは文字が前後に繋がった中で個々の文字を認識することができない。そこで、以下ではジャウイ文字を核だけ取り出し、形の上からいくつかに分けて説明する。

(1) 横線の上下に点がある文字

biniという単語を考える。1つ1つの文字を見ると、アラビア文字では

ب (b)、ي (i)、ن (n)、ي (i)

となり、これを右から左に並べると、

ب ي ن ي

となる。しかし実際にアラビア文字を書くときにはこうはならず、

بينى

とつなげて書く。

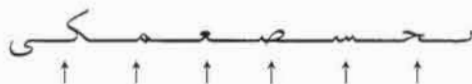
ここで重要なのは「横線の上下に点がいくつあるか」であり、下に1つならb、下に2つならi、上に1つならn、(さらに、ここでは挙げられていないが、上に2つならt) となっている。したがって、これを多少変形して



と書いても bini と読ませることができる。このように、アラビア文字では横線の形に大きな意味はなく、それがまっすぐな横一線であっても多少上下にうねっていても文字を認識する上で違いはないと考えてよい。単語の始まりから終わりまで、右から左へ一筆の横線があるとき、文字と文字を区切るための波状の起伏に注意しながら、横線の上下に点がそれぞれいくつあるかによって文字を認識する。

(2) 図案の上下に点がある文字

アラビア文字を認識する上で横線の形には意味がなく、上下にうねってもそれ自体は文字として認識しないと上で書いたが、「うねり方」がいくつか特定の図案になると文字として意味を持つようになる。例えば、



の矢印で示した部分がそれぞれ個別の文字である。このことは逆に、これらのいくつかの図案と一致していなければ、横線がどのような「うねり方」をしても個別の文字としてみなさないということでもある。

また、これらの文字は、上下に点がつくとそれぞれ別の文字を表わす。例えば、

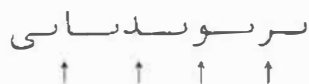
ح (h)、خ (kh)、ج (j)、چ (c)

のようになる。

したがって、アラビア文字をローマ字に置き換えるためには、横線に現われる「うねり方」の特定の図案を認識し、その図案の上下に点がいくつあるとローマ字でどの文字に当たるかを知らなければならない。この観点からジャウイ文字を整理したものを「特徴によるジャウイ文字一覧」として付録に掲げておいたので、個々のジャウイ文字とローマ字との対照についてはそちらを参照していただきたい。(なお、図案ごとに名前をつけておくと覚えやすいため、付録では参考として筆者のつけた名前を挙げておいた。)

(3) 後ろに繋がらない文字

上で挙げた例は、どれも横線が途切れずに続く中で「うねり方」の特定の図案が現われる場合であった。これに対し、「うねり方」の図案によっては、単語の途中でなくてもそこでいったん横線が途切れるものがいくつかある。例えば、



の矢印で示した部分がそれにあたる。アラビア文字で横線が途切れるのはこの4つ(およびそれらの上に点がついたもの)だけである⁴⁾。

(4) 繋がり方によって形が変わる文字

ローマ字のhに置き換えられるアラビア文字は複数あるが、そのうち1つは、①文字の繋がり先の先頭にある場合 (ه)、②中間にある場合 (هـ)、③末尾にある場合 (هـ)、そして④単独で書かれる場合 (ه) でそれぞれ形が異なる⁷⁾。

個々のジャウイ文字を認識してローマ字に置き換える基本的な方法は以上の通りである。この項の残りの部分では、1つのジャウイ文字に2通り以上のローマ字表記がありうるもの、および連結のしかたによって形が大きく変わるもののうち主なものを挙げておく。

- ① 母音にあたるジャウイ文字をローマ字に置き換える際には、法則にしたがって幾通りかの可能性を考えなければならない。その法則は本稿の以下の各節で説明されるが、さしあたっては、*alif* (ا) はaに、*ya* (ي) はiまたはeに、*wau* (و) はuまたはoに置き換える⁷⁾。
- ② *fa* (ف) はローマ字表記にしたときにpとfの2つの可能性がある。(ただし、pにするかfにするかで単語の意味が変わることはない。)
- ③ *qaf* (ق) は主としてアラビア語起源の単語に用いられる文字で、ローマ字表記にしたときにkとqの2つの可能性がある。時代が下るにつれてkとする傾向がある。
- ④ *lam* (ل) と *alif* (ا) が繋がると、「لا」(前の文字から繋がらないとき) または「لا」(前の文字から繋がるとき) の形になる。

◆練習(1)

以下の練習問題では、マレー語の単語をジャウイ文字で表記したものについて、ローマ字表記するとどうなるかを当てるのではなく、(実際のマレー語の単語にはないものも含めて) ローマ字表記にすると何通りの可能性が考えられるかを答えてください。

- ① افي ② بوكو ③ لاكي ④ ريبلا

2. ジャウイ表記とローマ字表記

前項では個々のジャウイ文字をローマ字に置き換える方法を扱ったが、それだけではジャウイ表記のマレー語を読むことはできない。ジャウイ表記とローマ字表記を比べた場合、ジャウイ表記では一部の母音が落ちるので、母音を補わなければならないためである。

ローマ字表記のマレー語では、子音 (C) と母音 (V) の組み合わせでCVやCVCなどの音節が表われ、これらの音節が組み合わさって単語ができていく⁷⁾。

例: ma-ta (CV-CV)
ka-wan (CV-CVC)
tan-pa (CVC-CV)
lam-bat (CVC-CVC)

ジャウイ表記マレー語も、これと同様にCVやCVCなどの音節を組み合わせで単語を作る。ただし、ジャウイ表記マレー語ではVを入れないで表記する場合がある。そのため、ジャウイ表記マレー語をローマ字に翻字する際には、個々の文字をローマ字に置き換えるだけでなく、必要な場所に適切なVを補わなければならない。

例：بولن b+u+l+n (CVCC) → bu-lan (CV-CVC)

Vを補うためには、ジャウイ表記ではどのような場合にVが落ちるかを知る必要がある。そのため、本稿ではジャウイ表記の「書き方」を整理し、それを通じて「読み方」を理解するという方法をとる。

マレーシア地域におけるジャウイ表記マレー語の表記方法は、なるべくVを落とさない方向で（つまり、ローマ字表記と近づける方向で）進んできており、この過程は現在も進行中である。本稿では、「マレー語文法の父」と称されるザアバによって1930年代に書かれたジャウイ表記の指南書を基礎に、20世紀のかんりの期間にわたってマレーシア地域を中心に広く用いられていた法則を扱う。したがって、本稿における「ジャウイ表記では……である」といった説明は、インドネシア地域や19世紀以前のジャウイ文書については必ずしもあてはまらないことをお断りしておく。（これらについてはできる限り注において言及しよう心がけた。）

II alif (ا)

1. 子音に挟まれた alif

(1) ローマ字表記のaは、ジャウイ表記ではalif (ا) で表わされる。CVCの音節でVがaの場合（「子音に挟まれたalif」の場合）にはalifが落ちる。この法則は、CVCが単語の何音節目に来ても適用される¹⁰⁾。

例：ma-kan → ma-kn ماكن
kam-bing → km-bing كميغ
sam-pah → sm-ph سمفه

alif以外の母音がCVCの形で落ちることはない。したがって、ジャウイ表記をローマ字化する上で、音節ごとに区切った結果がCCとなった場合、CVCの形にするためにi/eやu/oを補うことはない¹¹⁾。

例：ماكن ma-kn → ma-kan (×ma-kin, ma-ken, ma-kon, ma-kun)

◆練習(2)

① تاهن ② مقسي ③ تمقر ④ كوندغ

(2) 二重母音のaiおよびauは、iまたはuが子音である場合と同様に考えて上の法則を適用する¹²⁾。

例：ra-mai → ra-mi / ra-me رامي
pi-sau → pi-su / pi-so قيسو

したがって、ジャウイ表記で音節がCVの形になり、Vがalif以外である場合には、CとVの間にaを補う可能性も考える必要がある¹³⁾。

◆練習(3)

① تاقي ② كالو ③ سودارا ④ لنتي

2. 「弱いe」と接辞

(1) ジャウイ表記では「弱いe」を表記しない¹²⁾。

例：ke-cil → k-cil كچیل
be-sar → b-sr بسر

ジャウイ表記においてCVの形でVが落ちるのは「弱いe」だけであり、Cが単独である場合、「弱いe」以外の母音を補うことでCVの形にすることはない。

例：كچیل k-cil → ke-cil (×ka-cil, ki-cil, ko-cil, ku-cil)

CVCで「弱いe」が落ちた場合、形の上ではaが落ちたものと区別できないことに注意。

例：tem-pat → tm-pt تمفت (tampatとも読める¹³⁾)
per-gi → pr-gi فرگی (pargiまたはpargeとも読める¹⁴⁾)

「弱いe」を伴うCVは、通常は第1音節に表われる¹⁵⁾。ただし、第1音節と第2音節ともに「弱いe」を伴うCVの形をとる単語もあり、その場合、CVCのaが落ちたものと区別できないことに注意。

例：ne-ge-ri → n-g-ri نگری (nagriまたはnegriとも読める)
se-le-sai → s-l-si سلسي (salsiやselsiなどとも読める)

第2音節に「弱いe」を伴うCVが現われる単語も稀にある。

例：men-te-ri → mn-t-ri منتری
ten-te-ra → tn-t-ra تنترا

(2) 接頭辞の形にはCVとCVCがあるが、いずれも子音は「弱いe」なので母音が落ちる。

例：men-de-ngar → mn-d-ngr مندغر
ber-se-tu-ju → br-s-tu-ju برستوجو

接頭辞があると、ジャウイ表記では語頭に子音だけが並び、形の上ではCVCでaが落ちたものと区別ができないので注意。م (m)、ف (p)、بر (br)、تر (tr)、ك (k)、س (s) などが語頭に並んだ場合、CVCでalifが落ちた可能性のほかに、それらが接頭辞である可能性も検討する必要がある。

◆練習(4)

① قرمقوان ② فنتس ③ برسیه ④ برساتو

3. 語頭のalif

(1) 語頭の「弱いe」

語頭の「弱いe」はalifで表記する。形の上ではaで始まる単語と区別がつかない。

例：em-pat → am-pt امفت

e-mas → a-ms امس

この法則は、接頭語を伴ったために形の上では語頭でなくなった「弱いe」にも適用される。

例：ber-e-nam → br-a-nm برانم

◆練習(5)

① انتہ ② امق ③ اغکو ④ اغکن

(2) 語頭の *alif*

アラビア語やサンスクリット語に由来する単語には、ローマ字表記にしたときに語頭の *alif* が 'a や「弱いe」以外の母音になるものがある¹⁰⁾。

例：iblis ابليس	qmbak امبق
ikhlas اخلاص	umat امت
iklan اعلان	umpama امقام
ikrar اقرار	undang اندغ
imam امام	undur اندر
indah انده	unta انت
insaf انصاف	untuk انتوق
insan انسان	untung انتغ
intan انتن	upacara اقچار
Islam اسلام	upaya افاي
isteri استري	usaha اساه
istiadat استعادة	ustaz استاذ
istimewa استميو	usul اصول
izin اذن	utama اتم

◆(1) 習練のめとま◆

。いさだくてし記表で字マーロを文各の下以

- ① اکوفاکی باجو هیجو.
- ② ابغقندی تانم قادی.
- ③ کربو مندی دالم سوغی.

Ⅲ 接辞

1. 接頭辞

(1) 語形変化しない接頭辞 (ke-, se-, di-)

ke-はk (ک) のみ、se-はs (س) のみ、di-はd (د) のみ書く。

例：ke-ba-nyak-an → k-ba-nyk-n کبايقن

di-cin-ta → d-cin-ta دچينتا

前置詞のkeとdiも、接頭語のke-やdi-と同じようにkまたはdのみ綴る。

現行のローマ字表記では前置詞のkeやdiをそれに続く名詞と1文字分空けて書くが、ジャウィ表記ではkeやdiに名詞を続けて（ただし、dは後ろに繋がらない文字なので「近づけて」）書く。

例：ke ban-dar → k-bn-dr كبندر

di pa-sar → d-pa-sr دفاسر

(2) ほとんど語形変化しない接頭辞 (beR-, teR-, peR-)

ジャウィ表記では「弱いe」を書かないため、これらの接頭辞はそれぞれbr-, tr-, pr-となる。ただしRがlになる例外 (belajarやbelayar) に注意。

これらの接頭辞は、語幹がrではじまる語につくときはRが落ちる。（ただし、ジャウィ表記を読む場合はbr-, tr-, pr-で始まるので同じこと。）

br-, tr-, pr-で始まる語は、接頭語beR-, teR-, peR-による派生語である可能性がある。後ろに子音が続くときはそのまま切るが、母音が続くときはb-, t-, p-で切る可能性もある。

(3) 語形変化する接頭辞 (meN-, peN-)

語頭の文字に応じてNの部分が変わる。「弱いe」は書かないので、いずれの場合でも「m+C」「p+C」で始まる。

M+Cまたはp+Cで始まる語は、接頭辞meN-かpeN-による派生語である可能性がある。mやpを取るだけで語幹が得られる場合もあるが、さらに続く文字を変化させる必要がある場合もある。

◆練習(6)

以下の練習問題は、ローマ字表記で何通りの可能性があるかに加えて、その中からマレー語の単語として意味を持つものを答えてください。さらに、その単語が派生語である場合には語幹も示してください。

① دتوليس ② بلاجر ③ مريندو ④ فلایر

2. 接尾辞

(1) -nya

ny (ن) のみ書く。

例： bu-ku-nya → bu-ku-ny **بو کوٹ**

(2) -an

① n (ن) のみ書く。

② rで終わる語に-anがつくときは、rとnの間に *alif* を入れる。

例： be-sar-an → b-sr-an **بسران**

③ aで終わる語に-anがつく場合は *hamzah* を添えて *nun* を書く。(以下、ローマ字表記中では *hamzah* を「'」で示す。)

例： go-da-an → go-da'n **گودان**

be-la-an → b-la'n **بلان**

④ 「ローマ字表記ではaで終わるがジャウイ表記では語尾の *alif* を表記しない語」【→ VIの1】に-anがつく場合は、語幹に *alif* を添えてから上の③の法則を適用する(すなわち、 *hamzah* を添えて *nun* を書く)。

例： pem-bu-ka-an → pm-bu-ka'n **قمبوکان**

du-ga-an → du-ga'n **دوگان**

⑤ kで終わる単語に接尾辞の-anがつく場合、(マレーシア地域では20世紀半ばごろまで) -kan (-kn) をつけていた¹⁷⁾。

例： pa-suk-an → pa-suk-kn **فاسوقکن**

(3) その他の接尾辞

例： -i (ي)

-kan (کن)

-lah (له)

-kah (كه)

◆練習(7)

① باچان ② مماجوکن ③ فرسامأنش ④ کاتاکنله

IV ya (ي) と wau (و)¹⁸⁾

ya は、CVCの形でも CVの形でも常に書く。

1. 母音に続く *ya*

(1) 母音に続いて *ya* がある場合、母音と *ya* の間で音節を区切り、*ya* は *ie* ではなく *y* と読む。

例： ka-yan → ka-yn **کاین**

la-wat → la-wt **لاوت**

(2) *alif*に続く *ya* を *i/e* と読ませるには、*alif* と *ya* の間に *hamzah* を入れる¹¹¹⁾。

例：kain → ka'in كَأَيْن

laut → la'ut لَأُوت

◆練習(8)

- ① كاون ② مائة ③ لأَيْن ④ نَأُوغ

2. 語頭の *ya*

(1) 語頭に *ya* がある場合、*i/e* ではなく *y* と読む。

例：ya-yas يَاس

wak-tu وَكْتُو

(2) 語頭の *ya* を *i/e* と読ませるためには、*ya* の前に *alif* を置く。この *alif* は続く *ya* が母音であることを示す標識であり、それ自体は発音されない。

例：i-kan اِيْكَان

o-rang اَوْرَغْ

(3) 同じ形を、*alif* の後で区切って上の 1(1) の法則から a-y… と読むこともできる。

例：a-yah اِيَه

a-wan اَوْن

◆練習(9)

- ① اِيْكَور ② اِيَه ③ اَوْل ④ اَوْلَغْ

◆(2) 習練のめとま◆

- ① فَلَايِر بَكْرَجَا دَلْأُوت.
② اَمَقْت اِيْكَور اِيْم دَجْوَال.
③ بَاغُونَنْنْ بَرَارَه كَسَلَاتَنْ.

V *hamzah* (ء) の用法

1. 語尾の *k*

いくつかの単語では、語尾の *k* を *hamzah* で表記する。

例：ro-kok → ro-ko' رُوْكَوْء

en-cik → an-ci' اَنْجِيْء

2. 連続する母音

(1) *alif-ya* や *alif-wau* のように、母音が続く場合は後ろの母音を子音と見る【→Ⅳの 1(1)】。

ただし、2つの母音の間に *hamzah* がある場合にはどちらも母音と見る。

例：سأىغ sa'ing → saing (sayangは سأىغ)

(2) 母音で終わる単語に接尾辞の *i* がついた形で現われることもある。

例：mncinta'i → men-cin-ta-i منچىنتأى (من + چىنتأ + ي)

3. 接尾辞の-an

語尾の *alif-hamzah-nun* は、*alif* までの語幹に接尾辞の -an がついたもの【→Ⅲの2(2)③】。

例：go-da-an → go-da'n كودأ (ن + كودأ)

◆練習(10)

① فوكوء ② داتوء ③ ممقويأى ④ بلأن

4. 接頭辞 + *alif*

(1) *alif* で始まる語に *se* や *ke* などの接頭辞がつくときは、*alif* に *hamzah* をつける。

例：se + ikat → sa'i-kt سأىكت (س + اىكت)

※語頭に *sa'* や *ka'* の形がある場合、*hamzah* を *alif* の前に移して *s' + alif* や *k' + alif* の形にして、*s'* や *k'* を接頭辞、*alif* 以下を語幹と考えると捉えやすい。

例：سأىكت sa'ikt → s'-aikt → se-i-kat (س + اىكت)

سأندى sa'ndi → s'-andi → se-an-dai (س + اندى)

(2) *orang* や *ekor* など一部の語では、接頭辞 *se* がつく場合に語幹の先頭の *alif* が落ちて後ろに繋がる形になる²⁰⁾。

例：se-o-rang سئورغ (سأورغとはしない)

se-e-kor سئىكور

◆練習(11)

① دأكوى ② كأىمانن ③ سأكتى ④ سأوله

VI 慣用的な表記

1. CVで「弱いe」以外のVが落ちる例

語尾が *a* の単語は、以下の場合に語尾の *alif* を落とす。

(1) 語尾の直前の音節がCVの形で母音が *a* であり、最終音節の子音が横に繋がる文字（ただし *ng* は除く）の場合。別の言い方をすれば、ジャウイ表記で *alif* の後に「roda + l, ng」以外の子音が来て単語が終わっている場合、ローマ字表記にするときには末尾に *a* を補う。

例：sa-ya → sa-y ساي

ma-ta → ma-t مات

(2) 語尾がkaまたはgaである場合。

例：bu-ka → bu-k بوك

mu-ka → mu-k موك

ju-ga → ju-g جوك

me-re-ka → m-re-k مريك

ti-ga → ti-g تيك

2. CVCで *alif*以外が落ちる例

*wau*を含む音節が2つ続く単語では、一方の*wau*が落ちる場合がある²¹⁾。

(1) CV-CVCの形では後ろの*wau*が落ちる。

例：tu-run → tu-rn تورن

tu-tup → tu-tp توتف

(2) CVC-CVCの形では前の*wau*が落ちる。

例：kum-pul → km-pul كمقول

rum-put → rm-put رمقوت

音節に区切ってCCの形になった場合、CVCにするためには通常*alif*を補うが、前後の音節のVが*wau*である場合には*wau*を補う可能性もある。

このため、ジャウィ表記では同じでもローマ字表記では異なる場合もある²²⁾。

例：تولغ tu-lng → tolongとも tulangとも読める

◆練習(12)

① كات ② مان ③ قوله ④ سغكوه

3. その他の慣用表記

◇動詞

a-~~u~~a → a-d اد (ある/いる)

◇前置詞

pa-da → p-d قد (~に)

ke-pa-da → k-p-d كقد (~に)

da-ri-pa-da → d-r-p-d درقد (~から)

se-per-ti → s-pr-t سفرت (~の如く)

◇疑問詞

a-pa → a-p أف (何)

◇指示代名詞

i-ni → ai-n أين (これ)

i-tu → ai-t أيت (それ/あれ)²⁰⁾

◇人称代名詞

i-a → ai اي (それ)

di-a → di ze دي (彼/彼女)

◇接続詞

ji-ka → j-k جك (もし)

ser-ta → sr-t سرت (そして/参加する)

ma-ka → m-k مك (それで)

◇その他

li-ma → li-m ليم (5)

se-ga-la → s-g-l سكل (すべての)

su-a-tu → su-a-t سوات (或る)

ke-mu-di-an → k-m-di-n كمدين (その後)

de-mi-ki-an → d-m-ki-n دمكين (そのように)

※ kemudian と demikian を除き、ジャウイ表記ではどれも語尾の V が落ちているが、これらに -lah や -kah などの接尾辞がつくときにはジャウイ表記でも語尾の V を書く。

(3) 習練のめとま◆

① جك ساه تولغ تنجوقكن.

② سفرت اف يغ دفرچايأي.

③ ساي كات كغد مريك.

VII ain (ع/ع) の用法

ain (ع/ع) を伴う単語のローマ字化を考えるにあたって、次の2つの問題がある。

第一に、単語のどの位置にどう置かれるかによって、ain にローマ字のどの文字を当てるかが異なる。(1) 語頭に置かれた場合、(2) 子音に続く場合、(3) 最終音節に置かれた場合でそれぞれ異なり、また、それぞれの場合について①ain が単独で用いられるか②後ろに alif を伴うかでも異なるため、ain の用法を整理するには6通りの場合分けが必要になる。

第二に、ain を伴う単語のほとんどがアラビア語起源のものであり、原語表記に従って a

以外の母音が落ちているものもあるため、下の例の(1)の②のalamとalimのように、ローマ字表記では異なるけれどジャウイ表記では同じになるものが生じる。ジャウイ表記は現在までなるべく母音を補う方向に進んできたが、ainを伴う単語については、アラビア語の表記をなるべくそのまま用いようとする意識が強く働くためか、原語表記に忠実な表記法も依然として残っており、母音の表記法の時代差・地域差・個人差による揺れが比較的大きいように思われる³⁰⁾。

第二の問題は本稿で扱う範囲を超えているため、ここでは第一の問題として挙げたそれぞれの場合について、ainがどのようにローマ字化されるかの例を挙げることにする。

なお、ainは、前の文字から繋がらない場合 (ع) と、前の文字から繋がる場合 (ع) で形が異なることに注意。

(1) 語頭に置かれた場合

- ① 語頭のain (ع) は、単語によってa, i, uのいずれかをあてる。

例: <u>a</u> dat عدة	<u>a</u> lam علم
<u>a</u> mal عمل	<u>A</u> rab عرب
<u>a</u> ska <u>r</u> عسك <u>r</u>	<u>i</u> badat عبادة
<u>i</u> barat عبارة	<u>i</u> lmu علم
<u>u</u> lama علماء	<u>u</u> mum عموم
<u>u</u> mur عمر	<u>u</u> nsur عنصر

- ② 語頭のain-alif (عا) は、ほとんどの場合、ainとalifを合わせてaをあてる。

例: <u>a</u> dat عادة	<u>a</u> dil عادل
<u>a</u> lam عالم	<u>a</u> lim عالم
<u>a</u> m عام	<u>a</u> rif عارف
<u>a</u> syik عاشق	
例外: <u>i</u> lmu عالم	

(2) 子音に続く場合

- ① 子音に続くain (ع) は、ほとんどの場合akをあてる。

例: <u>a</u> kw <u>a</u> دعوا	<u>t</u> ak <u>b</u> ir تعب <u>i</u> r
<u>t</u> ak <u>l</u> uk تعلق	<u>t</u> ak <u>r</u> if تعريف
<u>m</u> ak <u>l</u> um معلوم	<u>m</u> ak <u>m</u> ur معمور
<u>m</u> ak <u>n</u> a معنا	<u>r</u> ak <u>y</u> at رعية
<u>y</u> ak <u>n</u> i يعني	
例外: <u>K</u> a <u>a</u> bah كعبه	

- ② 子音に続くain-alif (عا) は、多くの場合aaをあてる。

例: <u>f</u> aa <u>l</u> فعال	<u>m</u> aa <u>f</u> معاف
------------------------------	---------------------------

例外：doa دعا

(3) 最終音節の場合

- ① 語尾のain (ع) はkをあてる。

例：rujuk رجوع tamak طمع

- ② 最終音節で後ろに子音を伴うain (ع) は、aをあてることが多い。

例：saat ساعة tabiat طبيعة

taat طاعة

例外：syair شعر

文献案内

Belajar Tulisan Jawi. (Abdul Razak Abdul Hamid, Haji & Mokhtar Mohd. Dom, Haji. Kuala Lumpur: Penerbit Fajar Bakti. 1992(1977).)

[英語とマレー語によるジャウイ表記の書き方と読み方の入門書。説明が丁寧で、練習問題も充実しており、初心者の独習に最適。用いられている法則は本稿で扱った法則とほぼ同じだが、ainの用法など、いくつかの重要な項目の説明がない。]

Pedoman Ejaan Jawi Bahasa Melayu. (Ismail bin Dahaman & Manshoor bin Haji Ahmad (eds.). Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka. 1996.)

[1984年の研究大会に基づいてジャウイ表記検討作業委員会が出版し、ジャウイ表記の新たな指針として参照された*Pedoman Ejaan Jawi yang Disempurnakan* (1986年発行)の新訂版。1991～95年に行われたジャウイ表記に関する研究会議の結果を受けて改訂したもの。ジャウイ表記の法則を19の項目に分けて説明し、外来語の表記法や慣用表記など、*Belajar Tulisan Jawi*で詳しく扱われていないものを多く取り上げている。練習問題はない。-aiのaやCuCuCのuを落とさないで表記する。]

Daftar Kata Bahasa Melayu. (Dewan Bahasa dan Pustaka. Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka. 2001.)

[ローマ字→発音記号→ジャウイ表記の対照表。上下2巻に基語18,400語、派生語26,600語を収録。上巻の冒頭部分では、*Pedoman Ejaan Jawi Bahasa Melayu*に若干の修正を加えたものがジャウイ表記の説明として掲載されている。]

Petita Bahasa Melayu, Penggal I-III. (Zainal Abidin bin Ahmad (Za'ba). Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka. 2001(1941). edisi baharu.)

[[「マレー語文法の父」と称されるザアバによるマレー語の綴り方指南書(1941年発行)の復刻版(全3巻)。もとはザアバが1930年代に執筆したマレー語の表記法や作文技術についての記事を整理したもの。第1巻でジャウイ表記法が整理されている。]

Daftar Ejaan Rumi-Jawi. (Dewan Bahasa dan Pustaka. Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka. 1999(1988).)

[ザアバによる*Daftar Ejaan Melayu Za'ba* (1938年発行)をもとに、ジャウイ表記検討作業委員会が半世紀ぶりに改訂して作成したローマ字→ジャウイ表記の対照表。冒頭部分には接辞を中心とするジャウイ表記の簡単な説明があるが、あまり参考にならない。-aiのaやCuCuCのuを落とさないで表記する。]

Perancangan Bahasa: Sejarah Aksara Jawi. (Ahmat Juhari Moain. Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka. 1996.)

[ジャウィを中心にマレー語の表記法の変遷を歴史的に扱った研究書。時代・地域ともに幅広くデータを集め、手際よく整理している。マレーシア地域におけるザアバ綴り以降のジャウィ表記法の変遷についても触れられている。]

Sejarah Perkembangan Tulisan Jawi. (Hashim Haji Musa. Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka. 1999.)

[トレンガヌ碑文から現在までのジャウィ表記の変遷を扱った研究書。]

Panduan Menulis dan Mengeja Jawi. (Hamdan Abdul Rahman. Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka. 1999.)

[*Pedoman Ejaan Jawi Bahasa Melayu*をもとに、同書の理解にほとんど寄与しない例を著者が大量に添えて膨らませたもの。]

練習問題の解答と解説

◆練習(1)

- ① 2通り (与えられた単語の文字を1つ1つローマ字に置き換えると a+p+i/e。したがってローマ字表記の可能性は api と ape。)
- ② 4通り (b+u/o+k+w/o で buku, buko, boko, buku。)
- ③ 2通り (l+a+g+i/e で lagi, lage。)
- ④ 2通り (r+i/e+l+a で rela, rila。)

◆練習(2)

- ① 1通り (文字をローマ字に置き換えると t+a+h+n。これを母音と子音で表記すると CVCC。これを音節に区切る。まず V に注目して、CVC を1音節と見るか CV を1音節と見るか。[V が a であり、CVC で V が a なら a が落ちるので] CVC の形では音節に区切れない。よって音節に区切ると CV-CC。次に、CC の部分を音節にするには、CVC の V が落ちたものと考えて、補うべき V は a。したがって a を補って CV-CaC となり、考えられるのは tahan。)
- ② 2通り (s+k+s+i/e で CCCV。音節に区切ると CC-CV。CC の部分に a を補うと CaC-CV。V が i/e の2通りであることに注意して、考えられるのは saksi または sakse。)
- ③ 1通り (t+m+p+r で CCCC。CC-CC と区切り、それぞれ a を補って CaC-CaC。よって tampar を得る。)
- ④ 2通り (g+u/o+n+d+ng で CVCCC。まず V に注目して CV と区切るか CVC と区切るか。[①と違って V が a ではないので CVC の可能性も考えられる。] この部分を保留にしたまま残りの部分を見ると、CV と区切れば残りは CCC、CVC と区切れば残りは CC。[I の「表記と文字の基礎」の段階では] Cのみから成る部分を音節にするには a を補って CaC の形にするしかなく、C が奇数個では全体を音節に区切ることができない。よって CV-CCC とは区切れず、この単語を音節に区切ると CVC-CC。CC の部分に母音を補って CVC-CaC。V が u/o の2通りなので、gundang または gonang を得る。)

◆練習(3)

- ① 3通り (t+a+p+i/e で まず tapi または tape を得る。さらに、第2音節は CV で V が i の形なので a を補う可能性が考えられ、これによって tapai を得る。)

- ② 3通り (k+a+l+u/oでkaluまたはkalo、さらにkalau。)
- ③ 3通り (s+u/o+d+a+r+aでsudaraまたはsodara、さらに第1音節でaを補って saudara。)
- ④ 3通り (l+n+t+i/eでCCCV。音節に区切るとCC-CVで、第1音節にaを補ってCaC-CV。よってlantiまたはlante。さらに、第2音節にaを補ってlantai。)

◆練習(4)

- ① 6通り、ただし稀にさらに3通り (p+r+m+p+u/o+a+nでCCCCCCVVC。Vに注目すると後半部分はCV-VCと切れる。前半のCCCの部分は〔C-CCと区切って、Cの部分は「弱いe」を補ってCeとし、CCの部分はaまたは「弱いe」を補ってCaCまたはCeCとして〕Ce-CaCまたはCe-CeCとなり、peramまたはperem。後半のCV-VCの部分はまず puanまたはpoan、さらにCVの音節でVがuなのでaを補ってpauan。よって、perempuan、perempoan、perempauan、perampuan、perampoan、perampauanを得る。〔稀であるが、前半のCCCの部分をCC-Cと区切り、CeC-Ceとする可能性も考えられる。これを含めればpermepuan、permepoan、permepauanの可能性も増える。なお、形の上からはCaC-Ceもありそうだが、「弱いe」が「弱いe」以外の母音の後に来ることはないののでこの形は考えない。〕)
- ② 3通り (p+n+t+sでCCCC。CC-CCと区切り、母音を補うとCeC-CaCまたはCaC-CaC。〔①と同じ理由でCaC-CeCは考えない。CeC-CeCについても、語幹が「弱いe」だけでCVC-CVCの形になる単語は考えない。〕よってpentasまたはpantasを得る。この2つはどちらもマレー語で意味のある単語になっている。また、前半部分のCCをCe-Ceととって、Ce-Ce-CaCでpenetasも考えられる。)
- ③ 6通り (b+r+s+i/e+hでCCCVC。CC-CVCと区切り、CCの部分は母音を補ってberまたはbar。よって全体ではbersih、berseh、barsih、barseh。これらのうちマレー語で意味のある単語はbersih。ber-がついているが接頭辞ではなく語幹の一部。また、CCの部分をCe-Ceととればberesihまたはbereseh。)
- ④ 9通り (b+r+s+a+t+u/oでCCCVCV。CC-CV-CVと区切り、CCの部分に母音を補ってberまたはbar、さらに第3音節はCVでVがu/oなのでaを補う可能性もあり、satu、sato、satau。よって全体ではbersatu、bersato、bersatau、barsatu、barsato、barsatau。CCの部分をCe-Ceととればberesatu、beresato、beresatau。)

◆練習(5)

- ① 2通り (a+n+t+hでVCCC。音節に区切るとVC-CC。第2音節にaを補ってantah。さらに、語頭がalif+Cの形なのでalifを「弱いe」と読む可能性も考えられ、entahを得る。)
- ② 2通り (a+m+kでVCC。音節に区切るとV-CC〔VC-Cでは後半が音節にならないため〕。よってamak。さらにemak。)
- ③ 6通り (a+ng+k+u/oでVCCV。音節に区切るとVC-CV。(i)そのままangkuまたはangko、(ii)CVにaを補ってangkau、(iii)語頭を「弱いe」と読んでengkuまたはengko、(iv)先の2つを組み合わせでengkau。)
- ④ 2通り (a+ng+g+nでVCCC。音節に区切るとVC-CC。よってanggan、さらにenggan。)

◆まとめの練習(1)

- ① Aku pakai baju hijau.
- ② Abang pandai tanam padi.
- ③ Kerbau mandi dalam sungai.

◆練習(6)

- ① 12通り、di tulis (d+t+u/o+l+i/e+sでCCVCVC→C-CV-CVC。第1音節は「弱いe」を補うが、Cがdなのでdi-の可能性も考える、(ii)第2音節はaを補う可能性がある。よって、第1音節が [de/di] の2通り、第2音節が [tu/to/tau] の3通り、第3音節が [lis/les] の2通りとなり、全体では $2 \times 3 \times 2 = 12$ 通り。辞書を引くときは、de-で始まる3音節のものと、di-を除いたtで始まる2音節のものを調べる。)
- ② 1通り、belajar、語幹はajar (b+l+a+j+rでCCVCC→C-CV-CC。よってbelajar。)
- ③ 6通り、merindu、語幹はrindu (m+r+i/e+n+d+u/oでCCVCCV→C-CVC-CV。[me] [rin/ren] [du/do/dau] の $1 \times 2 \times 3 = 6$ 通り。)
- ④ 1通り、pelayar、語幹はlayar (p+l+a+a+y+rでCCVCC→C-CV-CC。[pe] [la] [yar] の1通り。)

◆練習(7)

- ① 1通り、bacaan、語幹はbaca (b+a+c+a+'+n。a+'+nはaで終わる単語に接尾辞-anがついたものなので、接尾辞-anを取り除くとb+a+c+a。これはCVCV→CV-CVで [ba] [ca] の1通り。)
- ② 3通り、memajukan、maju (m+m+a+j+u/o+k+n。CCVCVCC→C-CV-CV-CC。[me] [ma] [ju/jo/jau] [kan] の3通り。)
- ③ 3通り、persamaannya、語幹はsama (p+r+s+a+m+a+'+n+ny。a+'+nは語幹の末尾aと接尾辞-an。よってその後にあるnyも接尾辞 (nya)。これらの接尾辞を取り除くとp+r+s+a+m+a。CCCVCV→CC-CV-CVで、[per/par] [sa] [ma] の2通り、あるいは [pe] [re] [sa] [ma] の1通り。)
- ④ 1通り、katakanlah、語幹はkata (k+a+t+a+k+n+l+h。CVCVCCCC→CV-CV-CC-CC。[ka] [ta] [kan] [lah] の1通り。)

◆練習(8)

- ① 1通り、kawan (k+a+u/o+nだが、母音に続くu/oはwなのでk+a+w+n。CVCC→CV-CCで [ka] [wan]。)
- ② 1通り、mayat (m+a+i/e+tだが、母音に続くi/eはyなのでm+a+y+t。CVCC→CV-CCで [ma] [yat]。)
- ③ 2通り、lain (l+a+'+i/e+nだが、a+'+i/eはai/eなのでl+ai/e+nとなり、CVCの [lain/laen]。)
- ④ 2通り、naung (n+a+'+u/o+ngだが、a+'+u/oはau/oなのでn+au/o+ngとなり、CVCの [naung/naong]。)

◆練習(9)

- ① 4通り、ekor (a+i/e+k+w/o+r。語頭のa+i/eは、(i)a+yと読む、(ii)iまたはeと読む、の可能性もある。それぞれの妥当性は続く部分の切れ方による。(i)ととると

a + y + k + u/o + rでVCCVC→VC-CVCとなるが、VCの形でayとなればaiと綴るはずなのでこの可能性は考えない。(ii)ととるとi/e + k + u/o + r。VCVC→V-CVCで [i/e] [kur/kor]。)

- ② 3通り、ayat (a + i/e + t。(i)語頭をa + yととるとa + y + tとなるのでVCC→V-CCで [a] [yat]。(ii)語頭をi/eととるとi/e + tとなり、VCで [it/et]。)
- ③ 3通り、awal (a + u/o + l。(i)語頭をa + wととるとa + w + lとなるのでVCC→V-CCで [a] [wal]。(ii)語頭をu/oととるとu/o + lとなり、VCで [u/o]。)
- ④ 2通り、ulang (a + u/o + l + ng。(i)語頭をa + wととるとa + w + l + ngとなるのでVCCC→VC-CC。①と同じ理由からこの可能性は考えない。(ii)語頭をu/oととるとu/o + l + ngとなり、VCC→V-CCで [u/o] [lang]。)

◆まとめの練習(2)

- ① Pelayar bekerja di laut.
- ② Empat ekor ayam dijual.
- ③ Bangunannya berarah ke selatan.

◆練習(10)

- ① 6通り、pokok (p + u/o + k + u/o + '。語末のhamzahは-kなのでp + u/o + k + u/o + k。CVCVC→CV-CVCで [pu/po/pau] [kuk/kok]。)
- ② 2通り、datuk (d + a + t + u/o + 'はd + a + t + u/o + k。CVCVC→CV-CVCで [da] [tuk/tok]。)
- ③ 9通り、mempunyai、語幹はpunya (m + m + p + u/o + ny + a + ' + i/e。a + ' + i/eはaで終わる単語に接尾辞の-iがついたもの。接尾辞を取り除くとm + m + p + u/o + ny + a。CCCVCV→CC-CV-CVで [mem/mam] [pu/po/pau] [nya] あるいは[me] [me] [pu/po/pau] [nya]。)
- ④ 1通り、belaan、語幹はbela (b + l + a + ' + n。a + ' + nは語幹の末尾aと接尾辞の-anなのでこれを取り除くとb + l + a。CCV→C-CVで [be] [la]。)

◆練習(11)

- ① 6通り、diakui、語幹はaku (d + a + ' + k + u/o + ' + i/e。2つのhamzahについて、まずd + a + 'はd' + alifと考えて、alifで始まる単語に接頭辞のdi-または前置詞のdiがついたもの。u/o + ' + i/eは、練習(10)の③④と同じくu/oで終わる単語に接尾辞の-iがついたもの。この2つの接辞を取り除くとa + k + u/oとなり、VCV→V-CVで [a] [ku/ko/kau] の3通り。d'の部分は接頭語と前置詞の2通りあると考えて、全体で6通り。)
- ② 4通り、keimanan、語幹はiman (k + a + ' + i/e + m + a + n + n。k + a + 'はk' + alifと考えてk'の部分を取り除くとa + i/e + m + n + n。(i)語頭をa + yととればa + y + m + a + n + nとなり、練習(9)の①と同じ理由でこの可能性は考えない。(ii)語頭をi/eととればi/e + m + a + n + nとなり、VCVCC→V-CV-CCで [i/e] [ma] [nan]。k'の部分は2通り。)
- ③ 2通り、seagak、語幹はagak (s + a + ' + g + k。s + a + 'はs' + alifと考えてs'の部分を取り除くとa + g + kとなり、VCC→V-CC。語頭のalifが「弱いe」とも読めることに注意して [a/e] [gak]。s'は接頭辞しかないので1通り。)

- ④ 2通り、seolah、語幹はolah (s+a+'+u/o+l+h。s'の部分を取り除くとa+u/o+l+h。(i)語頭をa+wととればa+w+l+hとなり、練習(9)の①と同じ理由でこの可能性は考えない。(ii)語頭をu/oととればu/o+l+hとなり、VCC→V-CCで[u/o][lah]。)

◆練習(12)

- ① 1通り、kata (k+a+tだが、*alif*の後に「roda+l, ng」以外の子音で終わっているので末尾にaを補う。)
- ② 1通り、mana (m+a+n。①と同じく末尾にaを補う。)
- ③ 7通り、puluh (p+u/o+l+h。CVCC→CV-CC。CCにはaを補うが、その前のVがu/oなのでu/oを補う可能性も考えて、[pu/po][lah/luh/loh]。また、CVはaを補ってpauの可能性もあるので[pu/po/pau][lah]。[CVにaを補った場合、全体でCaC-CCの形となるのでCCにu/oを補うことはない。])
- ④ 10通り、sungguh (s+ng+g+u/o+h。CCCVC→CC-CVC。CCにはaまたは「弱いe」を補う。その後のVがu/oなのでu/oを補う可能性も考えて、[sang/seng/sung/song][guh/goh]。また、[se][nge][guh/goh]。)

◆まとめの練習(3)

- ① Jika salah tolong tunjukkan.
- ② Seperti apa yang dipercayai.
- ③ Saya kata kepada mereka.

註

- 1) 本稿では、マレー・イスラム圏のうち1960年代初頭のマレーシア連邦構想の対象とされた地域をマレーシア地域と呼ぶ。現在の国家で言えば、マレーシアのほかにシンガポールやブルネイを含む。
- 2) 本稿は、筆者がジャウイ文書研究会(事務局:上智大学アジア文化研究所・川島緑研究室)において2001年から2002年にかけて行ったジャウイの表記法に関するいくつかの報告を整理したものを「ジャウイ綴りマレー語の書き方と読み方」として『ジャウイ文書研究会ニューズレター』の第8号別冊(2002年12月1日発行)に掲載し、それに加筆訂正を行ったものである。本稿が成る過程でさまざまな問題点を指摘して下さった研究会メンバー、とりわけニューズレターの原稿を丁寧に読んで不明な点を指摘して下さった川島緑氏には、この場を借りて感謝の意を表したい。むろん、本稿の内容に対する一切の責任は筆者個人にある。
- 3) なお、以下の説明中では、アラビア文字とジャウイ文字の両方に当てはまる場合には「アラビア文字」、ジャウイ文字についてのみ当てはまる場合には「ジャウイ文字」と書く。そのため、1つの説明中に「アラビア文字」と「ジャウイ文字」が両方使われることがあるが、「アラビア文字」とある場合には適宜「ジャウイ文字」と読み替えていただきたい。
- 4) 例に挙げた4つの文字は、ローマ字にすると右からそれぞれr, o, d, aとなることから、後ろに繋がらないこの4つの文字をまとめて「roda」と呼ぶ教本もある。付録では、形の上からこの4つを「縦系」と呼び、上の(1)と(2)の文字を「横系」と呼んでいる。

- 5) ③と④は後ろに文字が続かないため、形の上からは上の(3)に分類することも可能であるが、これは文字自体が後ろに繋がらないのではなく、単語の切れ目などで後ろに文字が繋がらない場合に③または④の形をとること、また、接辞がつくつかないかによって同じ単語でありながらも文字が①⇔②、②⇔③、④⇔①と変化することから、この4つは(2)と(3)に分けるのではなくひとまとめにして理解されるべきものと考えられる。付録ではこれらを「特殊系」と呼んでいる。
- 6) 以下、「iまたはe」をi/e、「uまたはo」をu/oと略記する。例えばai/eとある場合、「aiまたはae」を意味する。
- 7) 音節の区切りを明確にするため、本稿では2音節以上からなる単語をローマ字表記する際に音節ごとにハイフンで分けて表わす。また、本稿ではローマ字表記の際に文字に下線を付したものが登場するが、これは説明の便宜のためであり、現在のマレー語のローマ字表記で他の音と区別するために文字の上下に線や点を付すことはない。
- 8) 1音節の単語でも *alif* を落として CC の形にする。ただし、باب (bab)、خاص (khas)、حال (hal) などのようにアラビア語起源の語彙でもとの表記に *alif* が入っているもの、および دان (dan) については、*alif* を落とさずに CVC の形にする。
- 9) ただし、インドネシア地域では CVC の形ですべての母音を落とす傾向がある。そのため、ここに挙げた例であれば、makan だけでなく makin などの可能性も考えられる。
- 10) 現在のマレーシア地域では、国立言語出版局 (DBP) によるジャウイ出版物などのように、この場合の *alif* を落とさずに表記しているものもある。
- 11) この点を考慮するならば、練習(1)の①~④および練習(2)の②はローマ字表記の可能性がさらに増えることになる。
- 12) マレー語には母音が6種類ある。a、e、i、o、uに加えたもう1つの母音を本稿では「弱いe」と呼ぶ。かつてローマ字表記では文字の上に記号をつけることでeと「弱いe」を区別していたが、現在ではローマ字表記上はeと「弱いe」を区別しない。
- 13) 「弱いe」以外の母音を含む音節の後に「弱いe」を含む音節は来ない。このため、この例で *tampet* となる可能性は考えない。
- 14) さらに、IIの1(2)の法則により *pergai* または *pargai* とも読める。
- 15) 外来語には *-isme* のように語尾の「弱いe」を伴うものがあるが、*كوميونىسمى* (Komunisme) のように *ya* の下の点2つがない文字で表記する。
- 16) ただし、ここに挙げたものでローマ字表記した場合にoまたはuで始まる単語は、現在ではほとんどの場合 *alif* の後に *wau* を入れて表記する。ローマ字表記でiで始まる単語についても、一部は *alif* の後に *ya* を入れて表記する。
- 17) 以前はローマ字表記でもkを入れていた。現在ではローマ字表記/ジャウイ表記ともにkを入れずに *-an* (ジャウイ表記では *-n*) をつける。
- 18) この項の法則は *ya* と *wau* に等しく適用されるため、説明中では *ya* だけ取り上げ、例に *ya* と *wau* をそれぞれ挙げる。
- 19) 上の(1)と見比べてみれば明らかのように、この *hamzah* は異なる単語を書き分ける際に非常に重要な役割を果たしている。ただし実際のジャウイ文書では、この *hamzah* を書かずに(1)と(2)を表記の上で区別しない書き手も少なくない。
- 20) 現在のマレーシア地域では、『ウトウサン・ムラユ』紙やDBP発行のジャウイ出版物などがこの慣用を廃し、*alif* を入れた表記を用いている。
- 21) この法則は、母音が *ya* である場合には適用されない。
- 22) 現在のマレーシア地域では、『ウトウサン・ムラユ』紙やDBP発行のジャウイ出版物

などがこの慣用を廃し、*wau*を入れた表記を用いている。

- 23) اتو (atau) を *itu* と読み間違えることが多いので注意。
- 24) 近年では、*ain* を伴う単語も伴わない単語も等しく扱い、なるべく母音を補ってローマ字表記と近づけようとする傾向がある。
- 25) Omar (人名) とも読める。

付録：特徴によるジャウィ文字一覧

(1) 横系 (～に点)

	(点なし)	(上に点)	(下に点)
横線のみ	س (弱いe)	ن n	ب b
		ت t	ي/e [y]
		ث th	
		ن ny	ن ny
カギ	ح h	خ kh	ج j
			چ c
前歯	س s	ش sy	
楕円	ص s	ض d	
楕円に縦棒	ط t	ظ z	
Cの字	ع (母音)	غ gh	
		غ ng	
扇	ع (母音)	غ gh	
		غ ng	
輪	م m	ف f(p)	
		ق q(k)	
		ق p	
ヒゲ	ك k	گ g	
縦棒	ل l		

(2) 縦系

ر r	ز z
و u/o [w]	و v
د d	ذ dh (z)
ا a	

(3) 特殊系

ه h(先頭)	
ه h(中間)	
ه h(末尾)	ة t(末尾)
ه h(単独)	ة t(単独)

初級編 1:女優の紹介記事

これは、『カラム』第1号(1950年7/8月号)の付属ピンナップ写真のモデルとなった女性について説明した記事です。このモデルは、当時数々のマレー映画に主演していた女優です。この記事を一文字一文字にローマ字に翻字してください。

گمبر جديہ - گمبر
لمفيران سباكي هديه
كيت دالم كلوارن اين
ايباله سئورغ فلاكون
وايشگمبر يغ مشهور دان
روفاون يايت چيء كسمه
بوتني فد اول بولن جون
بغالو اي تله ملتقن
جوانن سباكي فلاكون
وايشگمبر فد شريكة شو
برادرس تناعي كمدين
تله منداقة فرستوجوان سمولا باكي منروسكن خدمتن
ددالم شريكة يغتريسيوة. گمبر اين كيت امبيل خاص
دغن احسانن دان كيت برهاتف گمبر اين كلق اكن
مغهياسي تيمبوق ۲ روه مريك ۲ يغ گمبر دان
مغوركاكن كمدان.



初級編 2: ムスリム同胞団結成の呼びかけ

これは、『カラム』第69号(1956年4月号)に掲載された「ムスリム同胞よ、今こそ団結せよ!」という記事の一部です。この記事の内容をローマ字に翻字してください。

سودارا ۲۱ اخوان المسلمین! کالو سکیران کفد
کیشان بکیتو سکالی دکبلاکفکن مک بتاف
لاکي دغن حال کاکمان. اکام کیت اکن منجادی
هان اکام یغ هیدوف دفوفدوق ۲. اکام یغ هان
ملیفوتی کفد عبادة سمات. اکام تیدق اکن دافه
دالیرکن کفد سندي ۲ فرگاؤلن دان کمشارکتن
ددالم لیغکوغن کیت اسلام. اکام اکن اندور درفد
یغادسکارغ. ساي برانی منله بهوا دغن کمردیکان
یغدتوجو ایت مک اکام تیدق اکن مردیکا
سبکیهان یغدسبوة اوله فنصیحة اکام امنو توان
حاج حسن، یغتلله فرنه معتاکن بهوا توغکو مردیکا
دولو بارو دافه اکام مردیکا فول. یغدمکین این،
منوره فنداغن ساي، تیدق اکن دهارف. اکام اکن
تروس ترجاجه دان دجاجه. اوله یغدمکین کالو

کیت تیدق بکرج دان بگیة اتوق مهمیفولکن
اورغ ۲ کیت منکفکن کملیان اکام، منکفکن جهاد
مریک، جک فرلو دغن داره سکالیفون، مک ساي
فرچای بهوا اکام اسلام دملا یا مونکین مالف، مالف
دان ترلتق تروس ددالم فنجاجهن. کواجیفن کیت
مستی بر ایغه ۲ دان کواجیفن کیت برسام ساعه پسر
دالم فرکارا این. برجهادله سودارا ۲۱ اتوق منکفکن
کلمه الله.